

今月の
いいね!

ひげは探知機! —キスジヒメジ—



キスジヒメジとそのひげ(枠内)

【名前】

キスジヒメジ (スズキ目ヒメジ科)

【すむ場所】

神奈川県以南の水深 10~80mの砂地やどろ地

【大きさ】

全長 17 cmほどになる

【当館で見られる場所】

きらきら☆ラグーン

【特ちょう】

背側はもも色でお腹側は銀色をしています。名前の通り体の中央にはしる黄色の線が特ちょうです。

【担当学芸員から一言】

他のヒメジの仲間と同様に、ひげを使って砂をほったり小石を動かしたりして、砂の中の小動物を探して食べます。そのかわいらしい様子は、いつまでも見ていられそうです。(Y.I)

トピック

「ネイチャー・ルーム」展示 —海の化石と静岡の自然—

昨年3月末に閉館した東海大学自然史博物館では、展示されていた恐竜化石などの資料を保管しています。その資料の中には、海に関連したものや、静岡にスポットを当てたものが多くあります。今回、それらの一部を海洋科学博物館にて展示することになりました。限られたスペースの中で観覧順路などを考えながら、展示ケースや解説パネルをはめこみ、「ネイチャー・ルーム —海の化石と静岡の自然—」のコーナーを完成させました。ご来館の際は、ぜひご覧ください。(K.Y)



ネイチャー・ルーム

あれこれ

この子誰の子？ —海のおたまジャクシを育てる—



育成中のコンニャクウオの仲間



まさにオたまジャクシ！？

はじめに、海におたまジャクシはいません！ただ、そう呼ばれる魚はいて、身近な魚だとゴンズイの子どもがその1つです。しかし、さらにピッタリとくる魚がいます。それがクサウオ科の魚です。

今年1月の終わり、深海かご漁の漁師さんから「たのまれた生き物が入ったよ」と連絡がありました。すぐに現場に向かい、クーラーボックスに入れられた生き物を取り上げて片付けようとした時です。黒くて小さく、さらに丸いゴミのようなものがたくさんあるのに気づきました。よく見ると全て魚の子どもで、その姿はまさにオたまジャクシ！もちろん全て引取り、水族館へ持ち帰って育成をスタートさせました。

引取った子どもたちは、その特ちょうからクサウオ科コンニャクウオ属の仲間だろうと推測できました。この仲間の多くは深海で生活しているため、一般的にはまず目にする事のない魚で、水族館でしか見ることができません。さらに、深海ガニの甲羅（こうら）の中に卵を産むという変わった習性があり、今回も同じクーラーボックス内にいたエゾイバラガニに産み付けられた卵がふ化したのだと考えられます。

そんな子どもたちを「この子だれの子？」と思いながら育成中ですが、まだ種の判別はしていません。順調に成長しているの、親に近い姿かたちになったところで判別、あるいは遺伝子を調査して種を調べることを検討しています（ヒメコンニャクウオが親!?）。こんな貴重な機会ですから、じっくり育てています。もちろん展示も検討していて、開館期間中にみなさんにご覧いただきたいと考えています。その際はぜひ「海のおたまジャクシ」を見に来てください！（K.Y）

コラム

ディプロドクス全身骨格、福井へ出張！

昨年閉館となった東海大学自然史博物館の館内はシーンと静まりかえっています。そんなある日、大型重機やたくさんの資材、工具が運ばれてきました。突然のことで恐竜たちも驚いたのではないのでしょうか！？その目的は、当館で最も大きなディプロドクスの全身骨格標本を分解し、移動に向けた準備のためです。このディプロドクスは福井県立恐竜博物館において7/12から行われる特別展「バッドランドの恐竜たち ～北アメリカの一億年～」で特別に展示されます。つまり、福井県に出張するのです。

ディプロドクスの標本の全長は26mもあります。当館に移動・設置する際にも、大きさや高さに関して大変苦労したことは聞いていました。そのため、今後動かすことは無いという前提で設置されており、骨のつぎ目はパテのようなもので強く固められています。それらをていねいに取り除き、小型のクレーンで部分的につり上げながらしんちように分解・切断していきます。熟練の業者により作業はスムーズに進みましたが、計9日間もの大仕事でした。

無事に福井県に向けて出発を見送った時は正直ホッとしました。この後、約2週間をかけて会場で組上げられるそうです。福井県立恐竜博物館に集合した北アメリカの恐竜化石と共に、当館のディプロドクスが福井の皆様をはじめ、特別展に来場される多くのお客様にご覧いただけるのがとても楽しみです。（S.T）



ディプロドクス全身骨格標本



クレーンで吊りながらの分解

※生物の状況により展示を急遽中止する場合があります。予めご了承ください。